

【コンセプト②】 家族の暮らし力を ‘えんぱわ’ する ～保護者の夢を取り戻すために

障がいという言葉に翻弄され、傷つき・悩み・苦しみ・あせり・もがき・あきらめる保護者たち

その様子は、千差万別・十人十色

共通しているのは「傷ついたこと」「その傷は避けられないこと」そして「我が子の将来を夢描けなくなること」

ぴーすは、その傷の回復によりそい、障がい理解をうながし、障がいと上手につきあうコツを伝授する
その保護者の「自分らしい子育て」を「やりたかった子育て」を、思い出してもらう



その中で、保護者たちは、また前を向いて、自分らしい、その家庭らしい育児をする・・・うちに再び、我が子の将来をワクワク夢見ることが、取り戻す

どの子にも、未来は同じように待っている～ それを再発見してもらうために

障がい児は、ただそれが「一瞬、見えなくなった」だけ
ぴーすが提供するの、その夢を再び見つけるための支援
見つけてから先の「やる」は、保護者自身

～保護者の「子育ての夢」を取り戻す・その人らしい子育てを応援する

これが、子育てのノーマライゼーション

子育てのノーマライゼーションとは「育児代行」でも「しんどさゼロ支援」でもない
健常児と同等の「子育てのしんどさ」まで、「しんどさ軽減」することである

子育てのノーマライゼーションこそが、インクルーシブ（ともに生きる）の基礎となる～